

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21 年 8 月 4 日 開始 10 時 30 分 ~ 終了 15 時 30 分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム ゆうゆう永井 広島県
評価調査員の氏名	氏名 寺岡 信香 氏名 延平 和子
事業所側対応者	職名 施設長 管理者 氏名 藤井 美保 平門 千明 ヒアリングを行った職員数 (2) 人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471700280	(評価機関で記入)
法人名	特定非営利活動法人介護福祉サービスゆうゆう	
事業所名	グループホーム ゆうゆう永井	
所在地	広島県府中市府中町字永井171-6 (電話) 0847-43-3300	
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと	
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201	
訪問調査日	平成 21年 8月 4日	

【情報提供票より】(21年 7月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 15年 10月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 7人 非常勤 2人 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 4階建ての 3階 ~ 4階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50000円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (八百円立上りあり)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1200円	

(4) 利用者の概要(7月 9日現在)

利用者人数	9名	男性 0名	女性 9名
要介護1	0名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	2名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢 平均	87.1歳	最低	79歳 最高 97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	和泉医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成 21年8月28日

町の中心部である商店街の中にあり、警察署や駅も近く利便性がよい。利用者も馴染の町の中で安心した生活をされている。利用者、職員が和気あいあいと穏やかに家族の様に共に支え合いながら暮してもらいたいという思いを全職員が共有され、一人ひとりの生活歴を活かした役割ごとをしてもらい残存機能維持に努められている。常に利用者の立場に立った支援を心がけると共にふれあいを大切にされたケアを全職員が思いを一つにされ取り組まれている。職員同士の関係も良く、思いやりのある事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点については真摯に受け止め、職員間で話し合い出来るところから取り組まれた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義は説明され理解されている。評価についてはケアミーティングで職員の意見を聞きながら作成された。その中での気づいた改善点については職員で共有し取り組まれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 不定期ではあるが開催し家族代表、地域代表、包括支援センター、利用者等の参加により取り組み状況の報告や時には勉強会の場合もある。今後は定期的に開催し現参加者に加え民生委員、行政担当者の参加を依頼し事業所の理解をしてもらい、情報提供やアドバイスを求める働きかけをし、それらをサービスの質の向上に活かす取り組みに期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 月1回の家族会の中で一人ひとりの利用者の家族と話し合う機会を作り意見や苦情など個人的に聞き取るようにし、その中で出された意見や要望については全職員に周知し話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、地域の清掃活動やお祭り、防災訓練などに利用者と共に参加している。ボランティアの受け入れも積極的にしている。また、老人会主催の月1回のいきいきサロンにも参加し常に交流を深める取り組みをされている。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として地域の方との交流を通じて地域と共に歩んで行くという理念が作成されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りの時、法人理念と事業所独自の理念を唱和し意識づけをしている。また、迷った時は理念を振り返りながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の清掃活動やお祭りへの参加、ボランティアの受け入れなど、また防災訓練等にも利用者とともに積極的に参加し交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については全職員に説明し理解されている。自己評価はミーティングで職員の意見を取り入れながら管理者が作成された。外部評価の改善点は具体案を検討し取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	不定期ではあるが開催し、家族代表、地域代表、包括支援センター、利用者等の参加により取り組み状況についての報告の場となっている。医師や消防署の方の参加の場合は、認知症や防災についての勉強会と兼ねる会議となる場合もある。		定期的開催し、現参加者と共に民生委員や行政担当者の参加を呼びかけられ事業所の現状について理解してもらい、適切な情報提供やアドバイスを得る働きかけを行いその中での意見をサービスの質の向上に活かす取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難な問題点等や介護保険の事などについて相談に行くことも多々ありその中で得た情報提供や、アドバイスをサービスの質の向上に繋げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の家族会の案内やホーム便りと共に一人ひとりの暮らしぶりや、金銭管理等について定期的に報告している。また、家族会の中でも細やかな報告や職員の異動についてもお知らせしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の中で一人ひとりの利用者の家族と話す機会を設け、個人的に聞き取るようにしている。意見や要望があれば全職員に周知し話し合い運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず離職や異動の場合は、引き継ぎの工夫をしたり、利用者に理解してもらえる様な働きかけをし、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は順番に職員が参加できるようにしている。内容についてはケアミーティングの中で周知している。内部研修については週1回開催し、ケア面等についての勉強会をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所との交流はある。他の事業所との交流については、グループホーム協会主催の研修会などがありその中で交流をしていたが、現在は中止となっているため今後復活の依頼をし他の事業所との交流に繋げていく様取り組みたい。		引き続きグループホーム協会の復活の依頼に努められその中で研修等の活動を通じながら情報交換を行いお互いのサービスの質の向上に繋げて行く取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前面談をし見学や、お泊りの体験をしてもらいながら場の雰囲気に馴染んでもらうよう工夫され、納得された上で利用開始となっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家族の様に自然体で接し何事も利用者、職員の隔たりなく一緒にいき感謝の言葉かけもしている。又、相手に不安感を与えたり、傷つけたりする事がないよう配慮しながら支え合う関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉や顔の表情等から把握し、希望や意向に添うよう努めている。また困難な場合には生活歴や日々の状況などから把握し本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各担当者がアセスメントをとりそれらの情報と介護日誌を基に課題を分析し、ミーティングで出された職員の意見や、家族からの意見を取り入れた介護計画を作成している。家族の承諾も得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月～6ヶ月に1回の見直しとなっている。状態が変化した場合は必要な関係者と話し合いその都度現状に即した見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望により外泊の支援や急な体調変化、また夜間の急変時、医療機関へ同行するなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望によりかかりつけ医の受診支援の対応もしている。1週間に1回の往診支援もあり適切な医療が受けられる。協力医療機関の夜間の受診支援の体制もできている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を作成し、契約時承諾を取っている。家族会で意向を聞き取り家族、職員等で話し合い全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大切に言葉かけや対応に気をつけるよう職員の意識向上に努めている。記録等の個人情報の取り扱いにも配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者との会話の中から思いを引き出し希望に添えるよう努めている。又レクリエーション等も無理強いせず、一人ひとりの体調に合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	屋上の菜園で収穫した野菜で利用者と共に調理し、食事の準備も一緒に会話を楽しみながらされている。また、同じテーブルで料理の話や生活歴などを話題に会話の弾んだ楽しい食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制ができています。希望により夕食後の入浴もできる。拒否の場合はタイミングや気分転換の工夫をしながら清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	力量に応じ、料理や食事準備。毎朝の掃除、洗濯たたみ、ごみ捨て、買い物などそれぞれの力を活かした役割支援をし、感謝の言葉かけもされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月3回の外出支援計画を立て、時折の季節を感じてもらう事で日々の生活の活性化に繋げる取り組みをしている。日常的には、散歩や買い物など戸外に出かける機会を多く持ち気分転換をしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	3階と4階にある事業所なので、エレベーターの利用となっているが自由に出入り出来る。また1階の玄関も鍵はかけていない。見守りで対応し自由な暮らしができるよう支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回火災訓練を実施し、役割分担や避難場所の確保、避難用担架の常設も出来ている。利用者と共にいろんな場面を想定し避難訓練もしている。また、地域の消防訓練にも参加し協力を得る働きかけにも努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、職員間で話し合い食材が重ならないよう配慮している。水分摂取量については1000CCを目安に確保できるよう工夫している。体重も1週間に1回測定し一人ひとりの体重管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3. 4階のため、風通しも良く不快な臭いや光も無い。ご飯の炊ける匂いや、食事づくりの音など生活感のある暮らしができ落ち着いて過ごされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの思いが感じられる飾り付けや自分らしく過ごせる工夫がされた居室となっている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ゆうゆう永井

評価年月日 2009年 8月 4日

記入年月日 2009年 7月 7日

記入者 代表/管理者 氏名 平門 千明

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>ゆうゆう永井独自の運営理念を作成。家庭的な環境の下、家族やご利用者、地域の方々との交流を通してグループホームのあり方や役割を知って頂き、地域と共に歩んで行くことを目指している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・事業所全体の経営理念とゆうゆう永井の運営理念は、毎朝の朝礼時に唱和してから業務に取り組んでいる。また、業務(ケア)に迷った場合は理念を思い出して日々、振り返りをしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>・事業所全体の経営理念・運営理念を玄関・リビングに掲示し、ご家族へは、家族会の際に説明・理解を行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・日常的に散歩や買い物などに出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり、話をしたりしている。また、回覧板を回すなど、近所の方との関係を大切にしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・地域のお祭りへの参加・ボランティアの受け入れなど行っている。また、町内の溝掃除や防災訓練にもご利用者と一緒に参加している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ケアミーティングの場で、「施設行事を増やし、現入居者や利用者だけではなく地域の独居老人や居宅に施設に来て頂く」という意見は出たが実現出来てはいない。		運営推進会議や地域のいきいきサロン等に出席したとき頂いた意見を参考にし役立つことを明確にし、実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価・サービス評価の意義や目的を全員に伝え、前向きに取り組んでいくように心掛けている。外部評価での結果は、ミーティングなどの機会に報告し、改善に向けての具体案の検討や実践につなげるための努力を行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今までに5回行っている。地域の医師・消防署・派出所等の方々の参加もあり評価の報告等の内容も取り入れてきた。まだまだ回数的に十分ではなく、また会議の内容も思案中である。		運営推進会議は2～3ヶ月に一度と位置づけられているがなかなか定期的に開催できていない現状があるので改善していきたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回、地域包括支援センター主催の地域密着型会議(グループホーム会議)があり、地域包括支援センターの職員や同市内の他グループホーム事業所とも情報交換を行い、交流を図りながらケアの質向上に努めている(現在休止中)		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見を使用する入居者はおらず、必要性を感じることがないのが現状である。今後、ケアミーティングで学習する機会を設けていく必要がある。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会などを行い、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・時間をかけ、丁寧に行っている。特に利用料金・重度化や看取りについての対応・医療連携体制については詳しく説明を行い、同意を得るようにしている。契約解除については本人を交え、ご家族などに対応方針の相談を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・担当スタッフが定期的に本人とゆっくり話をする機会を設けている。出された意見は、ケアミーティングやケアカンファレンスで検討し、日々のケアに活かしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・毎月、家族会の案内を郵送している。案内カードに、ご本人の直筆で家族にメッセージを書いて頂き難しい方は、スタッフが代筆して近況を報告している。当グループホームのお便り(ゆうゆう永井新聞)と毎月のおづかいの領収書も同封している。また、家族会などで個別でご家族とお話する機会を設けて、出さ</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・ご家族には、面会時や家族会などで常に問いかけ、何でも言っただけのような雰囲気づくりに留意している。また、出された意見については、ミーティングやケアカンファレンス時に話し合い、反映させている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・ケアミーティングを月に回行い、意見を聞くようにしている。また、日ごろからコミュニケーションを図るように心がけるようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・ご利用者の方の自由な暮らしを出来る限り支えられるよう、起床時や夜間入浴など、ご利用者に状態合わせられたローテーションを組んでいる。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・信頼関係を築くためにも顔なじみの職員が対応することが重要であると考えており、異動や離職など、やむをえない場合も、その時期や引継ぎ面での最善の努力を行っている。新しい職員が入社した場合には、ご利用者にきちんと紹介し、ご利用者の方から施設内のことを教えてもらうような工夫をしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、それらの研修報告をケアミーティング時に行い報告会を兼ねた勉強会にしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・関連事業所などと勉強会や研修で交流を持つことにより、サービスの向上を目指している。また、同市内に連絡会（地域ケア会議）があり、そこでの情報交換も行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・日常の業務や面談時に職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。勤務中にも気分転換できる休憩室を確保したり、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員が向上心を持って働けるよう人事評価制度を導入している。また、職員の資格取得に向けた支援を行い、資格取得後は、本人の意向を重要視しながら職場内で活かせる労働環境作りに努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入居の希望があった際には、必ずご本人にお会いして、心身状況やご本人の思いに向き合い、職員がご本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご家族が困っていること、不安に感じていることなどを聞き、事前に話し合いをしている。ご本人のことはもちろん、ご家族も悩みなども聞くようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時、ご本人やご家族の思い、状況などを聞き、改善に向けた支援の提案、複数の選択肢を提示し共に検討し、支援を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人様や家族様に何度か見学に来て頂いたり、お試してお泊りを体験する等、慣れていただいた上で入居の運びをとっている。やむを得ず、すぐに入居になった場合は、家族様やそれまで関わってた関係者の方に面会に来てもらい、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・支援する側・支援される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るように場面作りや声かけをしている。スタッフは、生活を入居者の方と行い、お互いに支えあうことの重要性を理解し、業務にあたっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・日々の状況をこまめに家族様に伝えることによって、本人様の情報の共有を行っている。家族様と職員が、本人様の情報を共有することによって、本人様を支えていくための協力関係が築けていると思われる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・本人様の日ごろの状態をこまめに家族会カードやゆうゆう新聞にて報告すると共に、家族会への参加を呼びかけ、面会に来ていただくなど、関係が途切れないように留意している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・在宅にいたときに利用していた美容院など入所後も継続利用が行えるように支援している。家族様より、面会の制限がない方については、なじみの知人・友人との面会などが出来るように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・毎日のおやつ・食事時には職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動を通して入居者同士の関係が円滑に行えるような働きかけをしている。仲の良い入居者同士は、一緒に入浴したり、一緒に居室で過ごせるよう支援している。またご本人やご家族の意向も合せて数カ月おきに自宅へ外泊し、気分転換を		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・特記事項なし		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し量ったり、確認するようにしている。意思疎通困難な方には、家族様より情報を得るようにしている。また、本人様にとって、どこで、どのように生活することが最良なのかを家族様と適宜、相談している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人様・家族様に、どのような生活を行ってきたかを聞いている。ケアプラン作成時にはアセスメント表を用いて情報把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・生活・心理面の視点や、出来ないことより、出来ることに注目し、その方と全体の把握に努めている。職員は、入居者の方の生活のリズムを把握しており、個別の対応に心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・当グループホームオリジナルのアセスメント表を基本に情報収集をしている。またご本人やご家族には日頃の関わり合いの中で思いや意見を聞き、それを反映させるようにしている。計画作成作成担当者と介護スタッフが一緒になって、本人の意向を取り入れつつケアプランの作成に取り組んでいる。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3ヶ月・6ヶ月ごとの見直しを行っている。状態が変化した場合（介護度の変化や身体・精神状態の変化に伴う）は、期間前でも検討・見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・入居者の方の状態・状況は、個々の介護日誌に記載し、職員間の情報共有を徹底している。日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソードなどを記録するよう努めている。また日々のケアプラン実施表に対する評価やコメントも記録して次回のカンファレンスにて実施表を基に見直しをしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・入居者の方への柔軟な支援はもとより、近隣の高齢者が状況に応じてお泊りデイサービスなどを利用できるシステムを作り、適宜、対応している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・施設の新聞にて、地域の方々にボランティアへの協力を呼びかけている。また運営推進会議を通して、利用者が安心して地域での暮らしを続けられるように派出所や消防署や町内役員と意見交換する機会を設けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	現在のところ行っていないが、必要に応じて、その都度検討対応を行っていきたいと考えている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・困難事例について、地域包括支援センターへ相談に行き、助言を頂きながら連携し、改善につながった。その後、運営推進会議の開催や地域密着型会議の参加をきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係を築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人様や家族様が希望する医院・病院を主治医として対応行っている。必要に応じて、適宜、主治医と連絡を取り、受診対応を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・連携医療機関の医師が認知症の方の医療に熱心で、ご本人やご家族、職員の話をよく聴いてくださる。日常のご利用者の姿を通して全ての関係者と一緒に助言や指示を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・非常勤ではあるが、看護師が週に1度出勤し、入居者の方の健康チェックを行っている。また、特変・異常時には、24時間、その看護師に相談できる体制をとっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院によるダメージを極力防ぐために早期に医師と話をする機会をもち、事業所内での対応可能な段階なるべく早く退院できるよう、アプローチしている。また、家族様とも情報交換しながら、早期の退院支援に結び付けている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応しうる最大のケアについての説明を行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・毎月の家族会の際に、家族様の意向などの聞き取り、ターミナル期に向けての話し合いを行っている。当施設で出来ること・出来ないことについても、説明を行った上で、ターミナル期に備え、準備を行っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・他の事業所に移られた場合、ケアプランや支援状況を手渡すと共に、情報交換を行うなど、住み替えによるダメージを最小限に食い止めるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1．その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・ケアミーティングの際に、職員の意識向上を図るよう努めている。また、入居者の方の誇りや、プライバシーを損なわない対応に職員一丸となって取り組んでいる。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・複数の選択肢を提案して、一人ひとりの入居者が自分で決める場面をつくっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・基本的な1日の流れは決まっているが、時間を区切った過ごし方はせず、入居者の方の状況に合わせて生活を行っている。外出・散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・本人のなじみの美容院で希望に合わせたカットや毛染めを行えるように支援している。朝の着替えは、本人の意向で決めており、職員は支援が必要なときに手伝うようにしている。自己決定が困難な方に対しては、職員と一緒に選んで、本人の気持ちに沿った支援を心がけている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・調理・盛り付け・配膳・片付けなど入居者の方と全て行っている。また、職員と入居者の方が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りも大切にしている。屋上の家庭菜園で作った野菜で一緒に調理し、共に食事をすることも利用者の楽しみの一つである。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>・職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子やを見ながらそれを楽しめるように支援している。現在、喫煙・飲酒を望まれる方はいないが、今後、適宜、要望に応えていきたいと思う。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>・一人ひとりの排泄パターンを理解し、適宜、トイレでの排泄を行えるように支援している。オムツ外しにも取り組んでいる。リハビリパンツや尿とりパッドもその方の状態に応じて利用している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>・毎日の入浴を行っており、現在は、夕食後の夜間浴は実施していないが、仲の良い方は、一緒になどの配慮も行っている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>・日中の活動やレクリエーションへの参加を促し、生活リズムを整えるよう努めている。出来るだけ眠剤を服用しなくても生活できるよう、一人ひとりの睡眠パターンを知り、対応を行うようにしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>・得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、外出先や食事内容など、入居者の方と相談しながら決定・実行をしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・家族の方への説明と協力により、小額のお金を持っている人もいる。家族様より、お金を預かり、施設内で管理している方も、外出時には、自分でお金を払っていただけるようにお金を渡すなどの工夫をしている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>・天気・本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう、日常的に散歩、買い物など行っている・歩行困難な方も車椅子など使用し、外出の機会を予め行事予定に組み込み、日常的に支援している。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>個別支援の機会を設け、買い物や墓参りなどの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙・葉書などだすための支援を行い、入居者の方の希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会時間は定めていなく、家族様の都合のいい時間帯にいつでも訪ねてきていただけるような配慮をしている。また、本人様との食事や家族様の宿泊についても、相談に応じる体制を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束に関する勉強会を適宜行い、職員の共通認識を図っている。日々の申し送りの中で、日常のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行われていないかなどをチェックしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・夜間のみ職員が手薄くなるため、防犯上と安全を守るために施錠を行っているが日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。夜間の施錠については、入居者様、家族様にもその旨説明行い、同意を得ている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は入居者の方と同じ空間で記録など行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は、2時間おきに入居者の方の状況を確認すると共に、起きられたときにすぐに対応できるよう工夫している。		・建物の構造上、夜間のみ4階は廊下に設置してあるモニターにて安全の管理を行っている。夜間の巡視は、2時間おきに、職員が自分の目で確認している。あくまでも、夜間の安全対策のみに使用を行っている。プライバシーには十分な配慮を行っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・入居者の方の状況に合わせながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、入居者の方が使うときに注意が必要なものに分けて管理している。基本的には、包丁・はさみなど、どの入居者の方もすぐに使用できるように心掛けている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリハットの活用を行い、事故の再発防止に力を入れている。万が一、事故が起きた場合には、速やかに事故報告書を作成 今後の対応策の検討と、家族への連絡を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・定期的に施設内研修を行っている。また、夜間の緊急対応・緊急時の対応マニュアルの作成を行い全フロアの見やすい場所に掲示している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	実施できていないのが現状である。しかし、職員同士では避難方法についての話し合いは適宜行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・毎月の家族会の際に、家族の方に説明を行っている。様々な活動によるリスクを説明し、本人様にとって抑圧感のない暮らしの必要性もあわせて説明を行い、家族様と施設サイドでの具体的な話し合いが行われている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・一人ひとりの既往歴・注意すべき留意点など職員は把握しており、少しでも食欲や様子などの変化が見られたときにはその旨、記録に残し、状況に応じて早期の病院受診を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・介護日誌の中に処方箋を添付しておき、職員が随時、内服内容を把握できるようにしている。服薬管理方法も定期的に見直しを行い、随時、改善策を検討・実行している。服薬チェックとして、介護日誌に印を押し、配薬ミスを防いでいる。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・繊維質の多い食材や乳製品を取り入れた食事作り・おやつ作りを行っている。毎朝、食前には乳製品(ホットミルク・ココア等)を飲用して頂くことも習慣になっている。また、散歩・家事活動など身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後の歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・調理師資格を持った職員が栄養・カロリー計算を行い、献立を立てている。また、食事量の記入などを介護日誌に毎回行い、職員全員が、入居者の方のおおまかな栄養摂取量を把握できている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・利用者、スタッフ共にインフルエンザ予防接種を受けている。又、ノロウイルス対策として塩素系のものを使用した掃除を以前から行っている。起こりうる感染症についても、各種マニュアルを作成し、適宜、勉強会を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板・布巾を毎日漂白をし清潔を心がけている。調理器具・食器も定期的に漂白を行い、衛生管理に努めている。また、新鮮で安全な食材を提供するために、買い物はこまめに行き、買いだめをしないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 土 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・明るい雰囲気玄関になるように、花壇を作り、季節感を演出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・食事作りの音・ご飯が炊けるにおい・季節に応じた食べ物（おはぎ作り・柏餅・おせち料理など）など、五感や季節を意識的に取り入れる工夫を行っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づ くり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・廊下やベランダに椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い方と一緒にくつろげるスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・なじみのものがあることで安心感を持って生活が出来ることの説明など行い、在宅で利用していた家具などを、出来るだけ持ってきていただくようお願いをしている。		・家族の方に、使い慣れたもの・なじみのものの搬入の依頼を随時行っているが、なかなか進行していない状況である。今後も継続して行っていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・空気の入替えを2～3時間おきに行っており、トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ない工夫をしている。又、温度は、温度計と入居者の方の様子を見ながら調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・入居者の方の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレなど設計されている。また、段差や、歩行に際して、障壁になっているものがないか、日常的にチェックを行っている。		・生活環境(シンクの高さ・食器の収納高さなど)での改善・改修困難なものもあり、それらについては、スタッフが安全を考慮しながら支援・介助にて対応を行っている状態である。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・個々の状態に応じた環境整備を行うように努めている。訴え等があった時などは、適宜、本人の意思を聞いて対応するようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・玄関の花壇・屋上のプランターでの野菜作りなど、入居者の方が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。屋上でのおやつなど空間利用も行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)